

タイ語コンテスト 2020 講評

加納寛

今年度のタイ語コンテスト課題は、ひさびさにバンコクの正式名称の暗唱でした。世界一長い地名(?)として有名なバンコクの正式名称は、それ自体を歌詞にした歌が作られていて、覚えやすくなっています。これを知っておくと、どっかのクイズ大会で優勝できちゃったりする可能性も!(←むかし、民間のクイズ大会でこの問題が出て、賞金をもらった先輩の実例あり。)

今回は、COVID-19 対応のため、Moodle 上に自分が暗唱している動画をアップしてもらう方式で開催しました。その結果、15名の参加があり、それぞれ頑張りを見せてくれました。参加者数は例年より限定されていたものの、その分、レベルは非常に高かったと思います。例年ありがちな、途中で止まってしまうとか、なぜか掛け声の部分しか発声しないとか(バックコーラスの係か!)という参加者はいませんでした(動画投稿なので、当たり前かもしれませんが)。

審査は、日本人教員とタイ語ネイティブ教員の2名で行いました。1位は突出しており、両審査員が共通して抜群の評価を付けていました。母音や子音、声調といった発音はもちろん、パフォーマンス的にもずば抜けており、クライマックス(首都の名前にクライマックスなんかあるのかというツッコミはさておき)にクルッと一回転したりなんかする演出などは、審査員の目の玉も飛び出ました。一方、2位から5位までは、ほとんど点差が開かず、同点の場合はタイ語ネイティブ教員の評価を優先して上位としました。5位以上の方は、自信をもっていてよいと思います。

結果として、1位は法学部、2位と3位は国際コミュニケーション学部、3位と同点の4位・5位は経営学部と国際コミュニケーション学部というように、各学部の健闘も目立ちました。

タイ語コンテストは、将来、参加者がタイ人と一緒に働く際に「歌って踊る」ことによって円滑なコミュニケーションの一助としようとする意図をもっています。今回のコンテストの経験を、是非、タイでのボランティアや、卒業後のお仕事にも活かしていただければ、こんなに嬉しいことはありません。